

## 【レポート】

懐古趣味ではありませんが、昔の公務職場の方が多様な人材が生きる職場であったと思います。人員削減が優先され、目先の効率性のために業者委託が拡大され続けました。例えば、システム開発は職員の仕事ではないとされ、その結果、公務員のICTスキルは低下してしまったと思われます。この2つの問題点をつなげてみて解決策を考えました。

# 公務職場を魅力あるものにするために

— せめて悪くはないと思える職場に —

東京都本部／練馬区職員労働組合 佐野 淳一

## 1. はじめに

私は60歳定年の最後の世代でしたので、現在、再任用2年目です。40年近い公務員生活を振り返ってみると、いわば陰キャに分類される私に対しても、何かとかまってくれる先輩に恵まれていたと感じます。

仕事の面では、30代の一番働ける時期に情報処理部門に在籍して、事務職ながらプログラムづくりを学べたことが大きな財産だったと思います。

今回、公務職場から失われたものを嘆くのではなく、今の職場でも気楽にできることを考えてみました。なお、本文中に昔情報処理部門にいた方でないと通じない専門用語がありますが、空気感が伝わればと思い、そのまま使用しました。ご容赦ください。

※ 陰キャ……「表立って活動しない、社会的でない、人目を避ける傾向のある人」を指す言葉

## 2. 40年前の区役所は多様性が生きる職場だった

### (1) 区役所職員は多種多様だった

1985年、不本意ながら就職活動をしなければならなくなったとき、公務員を選択肢としました。国でも都道府県でもなく特別区に就職したのは、そこしか受からなかったためですが、結果的には特別区で良かったと思います。

事務職の特別区での配属は、本当に何でもありで、まったく毛色の違う職場を諸々体験できました。また、昔の区役所には今のご時世では考えられないような型破り（不適切？）な先輩が数多くいて、仕事以外のエンタメをたくさん教わりました。

韓国旅行に行って危険なゾーンに連れ込まれたり、毎週金曜日に池袋北口のスナックに終電までつきあわされたり、戸田競艇で絶叫したり……。こうした先輩方は、往々にして書類仕事に身が入らず、サボりがちでしたが、窓口で強面のお客様にすごまれても堂々と退散させるスキルを持っていました。

今どきのコンプラ、ポリコレを否定するものではありませんが、優等生ばかりの職場は息苦しいものではないでしょうか。また、多様性の尊重という標語が、逆に抑圧的に働く時代なのかもしれません。

※ コンプラ……「コンプライアンス」の略語。法令順守や社会的な規範を守ることをいう。

※ ポリコレ……「ポリティカル・コレクトネス」の略語。特定の人種、宗教、性別、性的指向、障害などのある人々を不快にさせる、差別的な表現や行為をしないという意識のこと。

## (2) ただの事務職なのにプログラミングを一から教わった

40年近い勤務経験の中で、最も財産になった職場は、1996年から2001年まで在籍していた情報管理課であったと思います。当時は、区の基幹システムは自営のホストコンピュータによるオンライン、バッチ処理を行っており、オンラインは委託SE（システムエンジニア）が、バッチは職員がプログラム作成を担当していました。いわゆるレガシーシステムという形態で、COBOLのプログラミングやA I MというホストOSを一から教わりました。私自身は根っからの文系で、自宅でプログラミングしたり、パソコンを自作したりという趣味はまったくありませんでしたので、完全な素人からのスタートでした。職場のO J Tはありましたが、やはり、プログラミングについて開眼できたのは蒲田のラボでの研修に参加させてもらったことが大きかったと思います。研修費用は高かったのですが、コーディングシートやモジュール関連図の書き方等、基礎から学べました。その後、職場で、コンパイル40点やJ C LのA B E N D等の失敗を重ねながら一人前になっていきました。

今では、システムといえばノンカスのパッケージ導入と相場が決まっており、職員の役割は委託業者の管理ということになっています。当時を振り返って、給料をもらいながらI C Tを学べたことは大変幸運だったと思います。また、今ではアウトですが、夜間処理を終えて常駐S Eと打ち上げに行ったりしたことは、モノづくりに携わる者同士として楽しい経験でした。

現在、COBOLの文法の出番はなくなりましたが、職場の様々な課題を、モジュール関連図的に整理し、解きほぐす思考パターンは大いに役立ちます。

【年表】練馬区のICTと自分史

1960	昭和35年	1960年代後半～ ホストコンピュータ	▼S39 外部センター処理開始	
1970	昭和45年			
1980	昭和55年	1980年代～ オフィスコンピュータ 1980年代後半～ パソコン インターネット	▼S58 オンライン処理開始 ▼S61 オフィスコンピュータ導入 ▼H元 データセンター	S61 採用 課税課
1990	平成2年		▼H6 インテリジェントビル(本庁舎竣工) ▼H7 業務用パーソナルコンピュータ導入 ▼H11 自営方式(一部SE)	H8 情報管理課 働き盛り
2000	平成12年	2000年代～ オープンシステム化 2000年代後半～ クラウドコンピューティング	▼H12 インターネット導入 ▼H12 事務用パソコン配備 ▼H15 民間委託方式の活用 ▼H21 基幹業務システムのオープン化	H18 収納課 再構築メンバー
2010	平成22年		▼H26 情報システムのクラウド化 ▼H27 練馬区共通基盤(専用クラウド) ▼H27 クラウドサービス型住民情報システム	H22 会計管理室 財務会計システム 維持担当 H27 マイナンバー カード交付係 JLIS障害に近く H30 教育総務課 学校徴収金管理 システム導入
2020	令和2年			R4 会計管理室 出戻り

### 3. いま職場で失われていること

#### (1) 悩める常識人たち

仕事の意義について、自身のキャリアアップをめざす人、生活のためと割り切っている人は迷路に嵌ることは無いでしょうが、中間層がフィットしない職場に配属されたとき歯車が狂い始めます。職場全体がカツカツの人員で回されているため余裕のない人ばかりで、誰にも相談できないまま苦悩が深まります。こんな先輩でもやれているのだというお気楽なお手本はもう近くにいません。

#### (2) プログラミングから遠ざかった公務員

児童、生徒はタブレットを持ち、授業でプログラミングする時代になりました。ChatGPTの普及でプログラミングは専門家のみの仕事ではなくなっています。

しかし、多くの地方自治体は21世紀になって、職員によるシステム開発を廃止し、業者管理を効率的に行うことに舵を切っています。私自身、遠い昔に情報部門にいたというだけではすぐに情報弱者に転落します。業者管理のためのICT、専門職のためのICTは、今後滅びゆく考えです。

※ ChatGPT……OpenAIによって開発された自然言語処理AIのこと。AIとの対話において、自然な文書を生成することが特徴。

#### (3) SNSは豊かな情報発信なのか

ポストコロナのコミュニケーションにおいて、SNSの重要性はますます高まっています。陰キャの私はLINEをしません、SNSが本当に豊かなコミュニケーションツールになっているか疑問です。YahooニュースのコメントやXを見ていると殺伐とした気持ちになります。単純に職場の飲み会を復活させれば良いとは言いません。もっと、オン、オフを柔軟に織り交ぜたつながりがあって良いと思います。

### 4. 帰宅部の部室イメージのゆるい集い

#### (1) 非生産的同盟の居場所

カツカツの人員の職場で緊張感に追われた毎日では疲弊します。かと言って、休日の趣味の世界への逃避では、週明けの出勤が憂鬱になるだけです。最近では、サザエさん症候群からドラえもん症候群へのシフトが起きているようです。

職場とかけ離れてはいないが、何のノルマもないたまり場的な空間。愚痴を聞いてもらったり、公務員あるあるの悩み相談ができたり。イメージは高校の美術部、文芸部のような実質は帰宅部でしかない部室のゆるい空間です。誰かいれば駄弁ったり、誰もいなくても文庫本、コミックを読んで息抜きできたり。

※ サザエさん症候群……週明けの月曜日の労働や学校が怖くて気分が落ち込む、ストレスや不安を感じるという症状。これに対して、金曜に仕事が終わると同時に次の出勤を考えて憂鬱になるので、休日の間は心も体も休まらない状態をドラえもん症候群と呼ぶことがあります。

#### (2) やるときはやる、魅力あるコンテンツの発信

さて、大上段の目的はなくてもカタチのある活動もします。

- ① 仕事に役立つ知恵を紹介する会報を月1で発行します。
- ② ICT講習会をやります。日頃、オタク扱いされている職員を引っ張り出したり、お友達人脈でバリバリのプログラマーを呼んだり、内容に制限はありません。
- ③ ウェブチャンネルづくりもできるかもしれません。東浩紀のシラスの公務員限定、超内輪版みたい

なチャンネル。現役公務員の場合は身バレNGでしょうから、退職した先輩を呼んできて、今だから言える経験談を存分に語ってもらいます。

- ④ 退職職員を呼ぶならば、おじいちゃん、おばあちゃんの元公務員と現役の孫世代の公務員の座談会企画も面白いと思います。

### (3) AI・RPAは仕事直結でなくても良い

自治体におけるAI・RPAによる事務改善事例が多く紹介されたり、各職場での積極的導入が奨励されたりしていますが、すぐに仕事に結びつけようとする、なかなか現実感を持ちにくいものです。遠回りのように見えても、事務改善から一旦離れた学びも必要です。もちろん、最後は仕事の質を向上させることに還流させるべきですが。

## 5. まとめ

効率化の追求によって、公務職場から多様な人材が失われてしまいました。また、公務員の仕事を業者委託に置き換えて行く流れの中で、職員のICTスキルの低下が起きました。完全な趣味の仲間の集まりではなく、昔ながらの飲み会の復活でもない、半オフィシャルのゆるい課外活動によって、職場に行くのが苦にならない空気を作れたら良いと考えます。その際に、ぐっと垣根が低くなったはずのICTの道具を大いに活用できると考えます。

筆者自己紹介
1986年に練馬区に入庁。1996年から2001年まで情報政策課に在籍して以降、システム開発と縁の切れない職場に一兵卒としてずっと携わってきました。2023年3月に定年退職後、再任用職員として働いています。